

令和元年度 第1回 歯科口腔保健推進検討部会 議事録	
日 時	令和元年10月17日（木）19時～21時
開催場所	市庁舎5階 関係機関執務室
出席者	歯科口腔保健推進検討部会 14名（別添名簿のとおり）
開催形態	公開（傍聴者0人）
議題1	<p>1 開会</p> <ul style="list-style-type: none"> 事務局より会議の趣旨等を説明。
議題2	<p>2 挨拶</p> <p>（藤原 健康福祉局健康安全部健康推進担当部長）</p> <ul style="list-style-type: none"> この会議は健康横浜21推進会議の部会として設置されており、これまでも健康横浜21の中で歯科口腔保健を進めてきた。 健康寿命延伸のためには歯科口腔保健が大切であるという流れの中、横浜市でも条例が制定された。これに基づき、計画策定を進めていく。 歯科口腔保健だけの計画ではなく、さまざまな分野と連携して進めていくために、本日はお集まりいただいた委員の皆様に御意見をいただき、検討していきたい。
議題3	<p>3 委員紹介及び部会長選出<資料1～2></p> <ul style="list-style-type: none"> 事務局より、会議設置の趣旨について説明。 各委員及び事務局より自己紹介 委員の推薦により、山本（龍）委員が部会長として選出される。
議題4(1)	<p>4(1) 横浜市歯科口腔保健の推進に関する条例について</p> <p><資料3></p> <p>事務局から資料3について説明</p>
質問等	<p>（山本（龍）部会長）</p> <ul style="list-style-type: none"> まずは条例の趣旨を広く市民に知っていただく必要がある。条例の周知チラシはどれくらい印刷してどこに配布したのか。 <p>（事務局）</p> <ul style="list-style-type: none"> 5万部印刷し、区役所や地域ケアプラザ、自治会、民生委員などに配布した。 <p>（瀬戸委員）</p> <ul style="list-style-type: none"> チラシの「保健医療等関係者」に薬剤師が入っていないので、入れてほしい。 <p>（山本（龍）部会長）</p> <ul style="list-style-type: none"> 薬剤師からの啓発も重要なので、ぜひ次回印刷時に入れていただきたい。

議題 4 (2)	<p>4 (2) 本市の歯科口腔保健施策の現状について<資料 4～8> 事務局から資料 4～8 について説明</p>
質問等	<p>(山本 (龍) 部会長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ライフステージによって歯や口の問題は異なる。 ・国の中間評価からは、むし歯は減っているが歯周病がなかなか減っていないことが読み取れる。また、障害児者の定期歯科受診が進んでいないということもわかる。横浜市は、国よりも歯周病に関しては悪い数値が出ており、障害児者に関してはデータがない状況である。 <p>(堀元委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歯や口だけの問題ではなく、他の分野と関係が深いことも多い。 ・子どもの歯並びに関しては、口腔の発達状況を鑑みずに月齢だけで食形態を決めてしまうということが、原因のひとつとしてある。 ・学齢期については、口の中の状況を見ることでネグレクトを受けている子どもが分かる。 ・成人期は、糖尿病になると歯周病になりやすいという関係性がある。 ・在宅高齢者については、口の機能の衰えや、薬剤による口の乾燥の問題がある。 ・それぞれのライフステージに関わる関係機関と連携して進めていく必要がある。資料 4 の体系図にも、どこと連携して何を進めていくのか書き込んでほしい。 <p>(清水委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害児者の受け入れ病院は 2～3 ヶ月待ちのこともあり、身近なところで一次医療を受けられるとよい。歯科が一番大切な分野だと思うので、増やして行ってほしい。 <p>(山本 (龍) 部会長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域ごとの障害児者の数が把握できているならば、必要な歯科医院の数も自ずと見えてくるのでは。 <p>(清水委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設に入っていない在宅の障害者はなかなか実態が把握されていないと思うので、ニーズを調査してほしい。 <p>(事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歯科保健医療センターで一次医療を担っており、今後も横浜市歯科医師会と連携して進めていきたい。

	<p>(堀元委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・横浜市歯科医師会としても、障害児者への歯科医療提供について、情報発信を強化していきたい。全身麻酔に対応している歯科医院は少なく、増やしていく必要がある。
意見交換	<p>(藤田委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育園では今年度年に2回の歯科健診が義務付けられた。しかし、健診結果を伝えた後は家庭任せになってしまっている。 ・噛む力や歯並びなどは生涯にわたって大切なことで、園としても考えていきたい。 <p>(鈴木委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校保健の中で歯科口腔保健は重要なものとして位置づけられている。横浜市では巡回歯科保健指導が行われており、むし歯の状況に関する数値もよく、成果が出ていると思う。他都市と比較しても、養護教諭を中心とした健康教育は成果をあげていると思う。 ・一方、小学校までに家庭で咀嚼力などを十分に身につけていない子どももおり、そういった子どもに個別に対策ができるとうい。 ・障害児の歯科保健については、学校保健の観点からも考えていきたい。 ・学習指導要領の改訂で、生活習慣と歯科の関わりの内容が一層充実した。 <p>(佐藤委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6月まで学校歯科医をしていた。巡回歯科保健指導でむし歯は減っているが、歯肉炎はまだこれから。また、中学生・高校生のデータが取れていないが、歯科医院の受診率が低く、部活をやっている世代でスポーツドリンクの問題もある。私立校は特に状況が見えづらい。 ・乳歯のうちは親がしっかりケアしていても、永久歯に生え変わってから問題が出てくるパターンもある。 ・少数ではあるが、ネグレクトとの関係性に関する視点も欠かせない。 <p>(渡辺委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小規模事業所に保健指導等を行っているが、歯科に関しては健診項目に入っていないため、これまでやってこなかった。健康経営の観点から必要性は感じつつ、歯科医がいないため、今後歯科医師会と連携していく必要がある。 <p>(塩山委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・元気な高齢者だと、受診しないことが元気な証であるといった考え方の人もまだまだいる。定期的にチェックを受けることの必要性を数字で伝えていく必要がある。

・在宅高齢者に関しては、歯科の優先順位が下がってしまい、歯科の視点が入ってこないことが多い。

(田中委員)

・横浜市保健活動推進委員会として、今年度初めて歯科口腔保健をテーマとして取り組むこととし、各区で保健師等を講師に勉強会をしている段階。

・強みとしては、横浜市保健活動推進員は約 4000 人、食生活等改善推進員もあわせれば約 6000 人いる。また、メンバーには高齢者が多いので、実際に出てきている症状の対策を教えてもらえると、実感として理解でき、取組もしやすい。

・ケアプラザと一緒に健口体操などをやっているが、やってみると歯科はおもしろいと感じた。

(山本(妙)委員)

・歯科関連分野での広報・活動においては歯・口腔のことだけ扱っている場合が多いと思うが、これからはひとの健康全体につながるものとして、食や栄養の大切さに関しても一緒に伝えていけるとよい。

・歯科医院では歯・口腔のことだけ扱っている場合が多いと思うが、これからは食や栄養の大切さに関しても一緒に伝えていけるとよい。

(守分委員)

・食生活等改善推進員協議会では、市からの委託事業の中で歯についてもやってきたが、今日の議論を受けて、子ども世代への啓発はあまりできていないと感じたので、これから正しい知識を学んでいきたい。自区の食生活等改善推進員は、ここ 3 年は年に 1 回口腔ケアに関する研修を受けているが、受講者が高齢者なので、テーマも高齢者に関する内容に偏りがちである。まずこの内容を見直していきたい。18 区でもどんなことができるか考えていきたい。

・オーラルフレイルについても、どのように市民に伝えていくか検討している最中。

(川田委員)

・超高齢社会の中、健康寿命延伸が大きな問題となっている。歯周病の医科歯科連携事業を通して、糖尿病患者の方の健康寿命を伸ばしていくためには、歯科口腔保健が欠かせないと感じている。

・これから課題となってくるのは、通院から在宅に切り替わった方の内科管理や歯科管理等のクオリティをどう維持していくか。薬剤師も含めて、連携体制をどう構築していくか検討している段階。

	<p>(瀬戸委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・在宅の方から、歯科に関してどこに相談したらよいか、といった声をいただくことがある。ケアプラザを通してなど、紹介できる先があるとよい。 ・禁煙支援の中で、口腔内への影響についても話はしている。 <p>(石黒委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歯科衛生士を養成する立場としては、歯科衛生士学校が3年制以上となつてから、障害・高齢者への対応も学ぶようになってきている。実習を通して当事者と関わり、その分野にやりがいを感じて就職する歯科衛生士も出てきている。しかし、新卒の歯科衛生士が在宅に入っていくのは、家族への対応等、難しさがある。 ・外来に出ていたころの経験からは、市の歯周病検診を受けに来る人がほとんどいない。若い世代や母親世代はスマホで情報を入手する時代なので、周知方法に工夫が必要ではないか。 <p>(清水委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・重複するが、施設や学校に所属していない在宅の障害者について、実態を調査し把握してほしい。 ・二次三次医療の全身麻酔等にいくまでの、初期の口腔ケアを進めることが大切だと思う。
<p>議題 4 (3)</p>	<p>4 (3) 歯科口腔保健推進計画の策定について<資料 9 > 事務局から資料 9 について説明</p>
<p>質問等</p>	<p>(山本 (龍) 部会長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画には何かしらの数値目標を立てて、前後の比較をして評価していくということによいか。 <p>(事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・そのとおり。具体的取組を進めつつ、その効果検証についても進めていく。
<p>部会長 まとめ</p>	<p>(山本 (龍) 部会長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・条例も制定されたが、歯科関係者だけで進めていくことは難しく、全員が自分事として考える必要がある。 ・議論の中で横浜市独自の課題も見えてきた。例えば、子どもの口腔機能や歯周病・糖尿病の関係性、在宅高齢者や障害児者へのアプローチ方法など。中には、まだ他都市では出てきていない課題もあり、横浜市がモデルとなっていければと考えている。

閉会	5 閉会 ・次回会議は2月頃を予定している。
----	---------------------------